

お客様のプロフィール



事業者名
宗像貨物運送有限会社

事業概要
一般貨物のトラック運送

従業員数
10名

運転記録のデジタルデータを活用した時間管理、安全教育の実施

導入前の問題・課題

アナログタコグラフは運転状況として回転数しか分からなく、別途手で記録する必要があったため手間と時間がかかった。

選んだ理由

デジタルタコグラフの導入に国から補助金が出る案内があり、導入に踏み切った。

導入の効果

記録の手間が省けて時短になった。また、様々な運行状況が把握できるので、安全運転や省エネ運転の指導にも繋がっている。

創業60年以上の運送会社です。トラックで物資を運ぶという業務はアナログな仕事ではありますが、業務の一部にデジタルを導入している部分もありますよ。たとえば、トラック運送事業者向けの総合管理システムや会計システム、あとはデジタコを使用しています。

デジタル・タコグラフ（通称：デジタコ。運転記録計）を導入したのは、2009年ごろでしょうか。世間で環境問題の意識が高まっていたころです。営業の方が、国から補助金が出るのでデジタル化にしませんかと案内してくれたことがきっかけでした。

かつてのタコグラフは回転数、車速の変動、時間等がわかりますが、別途運行日報を記載する必要があり、手間や時間が掛かることが問題でしたので、デジタル化のメリットはイメージできました。ただ同時期に燃料価格の上昇があり、導入時に不安があったことも事実です。

環境意識の高まりや燃料の高騰などは現代も似た状況です。最終的には、補助金が出ることや、エコ運転で燃費が下がればという思いで導入を決心しました。

期待どおり、デジタル化で運行日報を記載する手間が省けて、従業員の時短に繋がりました。また、速度、急発進、急加速、急減速、燃費など運行状況をより細かく把握することができ、ドライバーの安全運転や省エネ運転の指導にも繋がったことの意義は大きいです。運送業は昨今、時間管理も厳しくなってきましたし、無駄なく日々の運行をしていくためにはどうすればいいか、デジタコのデータも活用しながら模索中です。

また、機器を使用するにも費用はかかります。デジタコをフル活用し、省エネ運転の実施でコスト削減につながるよう指導しながら、現在利用しているツール以外のデジタル化も含めて、前向きに取り組んでいきたいと思っています。

代表取締役
伊規須 美津子氏

検討中の方へ
メッセージ

**デジタル化はまずは出来ることからやってみる、
ということが大事な第一歩です。**